

学校協議会の記録

第 1 回

日 時 平成 28 年 6 月 2 日(木) 14 時 30 分 ~ 16 時 30 分
場 所 大阪府立りんくう翔南高等学校 プレゼンテーションルーム
次 第

- ◆ 校長挨拶
報 告 「学校再編整備(普通科専門コースの設置)に向けて」(進捗状況)
- ◆ 今年度の取り組みと現状報告 (進行:首席)
 - ① 授業アンケート集計結果、他 (校長)
 - ② H27 進路状況、H28 進路希望状況 (進路指導主事)
 - ③ 生徒の状況、H28 指導目標他 (生徒指導主事)
 - ④ PTA 事業計画 (総務部長)
 - ⑤ 体育祭について (生徒会部長)
 - ⑥ 各学年の状況について (各学年主任)
 - ⑦ H27 学校協議会委員評価、他 (教頭)

〈 休 憩 〉

- ◆ 協 議 (座長:校長)
 - ① H28 学校経営計画について (説明:校長)
 - ② 学校再編整備関係/新たな学び・積極的な学びに向けて

第 2 回

日 時 平成 28 年 10 月 13 日(木) 14 時 30 分 ~ 16 時 30 分
場 所 大阪府立りんくう翔南高等学校 アクティブラーニング(AL)教室
(本校 3 号棟 2 階)
次 第

- ◆ 校長挨拶
報 告 「学校改編の進捗状況・授業アンケートの結果」について
- ◆ 今年度の取り組みと現状報告 (進行:首席)
 - ① 第 1 回授業アンケート集計結果、他 (校長)
 - ② 一斉配信事業 (一斉配信担当)
 - ③ 進路中間報告 (進路指導主事)
 - ④ 生徒の状況 (生徒指導主事)
 - ⑤ 保健室利用状況 (保健主事)
 - ⑥ 翔南祭について (生徒会部長)
 - ⑦ 教科書採択結果 (教務主任)
 - ⑧ 各学年の状況 (各学年主任)

〈 休 憩 〉

- ◆ 協 議 (座長:山口委員)
 - ① 「将来への取り組み/普通科専門コース制へ向けて」
(進学指導・地域交流・国際交流等)
 - ② 「授業力向上(アクティブラーニング)」について

第3回

日時 平成29年1月26日(木) 14時30分～16時30分

場所 大阪府立りんくう翔南高等学校 アクティブラーニング(AL)教室
(本校 3号棟2階)

次 第

- ◆ 校長挨拶
- ◆ 今年度の取り組みと現状報告 進行：(首席)
 - ① 普通科総合選択制アンケート集計結果他 (校長)
 - ② 進路状況 (進路指導主事)
 - ③ 生徒の状況について (生徒指導主事)
 - ④ エリア人数の推移について (ガイダンス室長)
 - ⑤ 各学年の状況 (各学年主任)
 - ⑥ 学校教育自己診断アンケート集計結果 (教頭)

〈 休 憩 〉

4 協 議

- ① 「学校教育自己診断アンケート集計結果」を受けて
- ② 「りんくう翔南高校の将来」に向けて

第1回

▼校長挨拶

報告「学校再編整備(普通科専門コースの設置)に向けて」(金田校長)

○学校再編について(普通科専門コースへの改編)

他校では2、3の専門コースを置く学校もあるが、りんくう翔南高校は「ハートフルほいく専門コース」のみ。それ以外は文系理系の普通科。週31時間の授業数で、5日間毎日、国数英の授業を行う形も継続。保育系の進学をめざす。

他に、アクティブラーニングの導入や、出前授業等の地域交流を中心に、専門コースを構築する予定。アクティブラーニングルームも導入し、今年の夏に工事をする予定で、無線LAN、タブレットも設置予定。保育コースは日根野高校にもあるが、わが校は「福祉のマインド」の育成を柱としていく。

■今年度の取り組みと現状報告

1) 平成27年度授業アンケートの結果(金田校長)【資料】平成27年度授業アンケート結果

26年度と27年度を比べると、質問1「授業中に集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる。/ 私は進んで実習に取り組むなど授業に積極的に参加している。」の数字が上がっている。宿題などの課題提出率も上がっており、数年前に比べると落ち着いて授業を受けているといえる状況。ただし、大人しく授業を聞いているから学力が上がっているとは言えない。引き続き、学力向上が課題である。また、原因は明らかではないが、アンケート結果が2回目になると、若干下がっているのが気になるところではある。資料に写真を添付しているが、部活動、例えばレスリング部、ABCまつりでのボランティア(ダンスなど)、地産地消減塩弁当プロジェクト(3校合同で実施)等、活躍している。

2) H27の進路状況、今年度の希望状況(進路指導部長より)

進学6割、就職2、3割で大きな変化はない。就職に関しては、例年通りの企業が並んでいる。合格率も例年通り。経済状況の影響から、求人は増えてきている。特に関空関連の仕事はよく声がかかる。ただし、昨年度採用者のうち、5月の中旬から、4~5名が退職してしまっている。進学の希望調査は例年通り専門学校が大きい割合を占めている。大学としては桃山学院大学の希望が多い。4期生は指定校推薦の4名合格だった。しかし、5期生はAOで3名、公募で3名と頑張ってくれた。指定校枠は家庭の経済状況などもあり、枠に余裕がある。

看護の分野では大阪南医療センター附属大阪南看護専門学校という難関を公募で合格している。

3) 生徒の状況、H28 指導目標他（生徒指導部長より）

遅刻指導（月5回以上遅刻者対象）を受けた生徒人数は、現時点で1年生は0人。過去と比べると、年々懲戒件数は減少傾向を示している（泉南地区のどの学校も）。特に喫煙と喧嘩は減っている。その代わりに、大阪府の高校全体としてインターネットへの書き込み等、情報モラルの欠如によって、懲戒処分になるといったケースが増えている。本校においても、情報モラルやリテラシーの教育を充実させる必要がある。

4) PTA 事業計画（総務部長より）

5月21日 PTA総会。例年になく多くの方にご参加いただいた。

5月27日 体育祭は雨天のため、5月30日に実施。

9月30日に翔南祭、10月13日に第2回学校協議会の予定。

2017年度の入学式は4月8日が土曜日のため、4月10日に行う。

5) 体育祭について（生徒会担当より）

体育祭については当日（5月27日）雨のため30日に延期。30日も午前中雨であったが、生徒たちの強い希望に対応する形で12時から開始。その影響で、競技を3つ削り実施。グラウンド整備には多くの運動部員と教員が携わり決行。昼からは晴れ、体育祭は大いに盛り上がった。今後の課題としては、順延時にもなるべく実施できるような詳細な対応を事前に考えておくことがあげられる。

6) 各学年の状況（各学年主任より）

▼1年生

1年生に原級留置はいない。入学生のみが在籍。1クラス40人。比較的挨拶もきちんとする子が多く、全体的に活発で元気な雰囲気が見られる。特に女子は活発でグループワークも積極的に参加している。遅刻・欠席も少なく、先輩が落ち着きつつあるので、それに従って1年生も落ち着いてきている。生徒指導面でもほとんどの子が素直に従う傾向がある。先生・生徒間での人間関係も円滑。この状況に気を抜くことなく、今後も指導をしていきたい。

▼2年生

基本的にどの先生も生徒目線であり、生徒のことを考えて行動している。そのため、教員に不信感を抱く生徒は少ないという印象。ただし、昨年度懲戒件数が多かった学年でもあるので気を引き締めて指導を行う必要がある。

▼3年生

落ち着いてきたと言われる。行事に対して熱心な生徒が多い。体育祭でも大いに盛り上がった。1年生で過呼吸になった生徒は6人いたが、今は0人。進路も決まっていない生徒もいるが、真摯に向き合っている。

7) H27 学校協議会委員評価他（近西教頭）

重点目標についての、取り組み内容に関して自己評価の欄を設けA～Eでの五段階評価を行った。外部評価に関しては「確かな学力の育成→B」、「思いやりの心を育てる→B」、「心安らげる学校づくり→C」と、まずまずの評価を得ている。

生徒、保護者、教員間で意識の差がある。アンケート結果で特徴的なのは学校が楽しいと感じている生徒が84%と多いことである。その一方で「まったく楽しくない」という生徒も一定数いる。また、「授業をわかりたい」と思っている生徒も一定数いるため、尚一層丁寧な指導・支援を行う必要がある。

■協議

はじめに=====H28 学校経営計画についての説明（金田校長）

本校の課題として、地域からあまり良い印象を持たれていないということがある。それを何とかするために「確かな学力の育成」「思いやりの心を育てる」「心安らげる学校づくり」の3つの柱を基準に7年間経営してきた。その中で生徒指導中心の学校から、進学を目指す勉強の学校へと舵を切ってきた。先述の再編を良い機会として、さらに大きく改革し、進めていきたい。

進学についても今年の卒業生で、AOや推薦の様な特別入試ではなく、和歌山大学の二次で合格した生徒もいる。国公立、難関大学も手が届くようになってきたので、継続して合格者を出していきたい。そのため、夏期の自主勉強週間を設けている。

また、その他の取り組みとしては、学習発表会での成果発表等を通じて、自分を表現する“プレゼンテーション能力”の向上させることを目標にしてきた。

さらに、進学浪人者を除く進路未決定者を10%以下にすることを目標にし、現在のところ10%以下を保っている。また、今年から進学希望者支援チームを結成し、1年生から3年生まで継続して支援し、模試の勧誘や進学のための補習などをチームとして企画・実行することを始めている。

思いやりの心の育成については、ICT機器の一斉配信システムを活用し、志学や人権教育などを進めていく。全てのHR教室にディスプレイがあり、他の教科でもうまく使えば高い教育効果が見込める。効果的に活用している教員も多いが、引き続き、今年度も、ICT機器をうまく教育に生かす力を高めていきたい。心安らげる学校づくりに向け、服装・頭髪一斉指導を通じて規範意識の再認識を図っている。

他にも、日曜日に希望者を募ってトイレ清掃の実施、歯の健康のために校内に歯磨きのためのスペースを設置するなど、美化意識と健康衛生意識の啓発をはかっている。また、防災のためのヘルメットの購入と設置も進めている。

・学校改変に関して

Q 再編の具体的な話についてももう少し教えて頂きたい（委員）

A 来年度に普通科総合選択性の高校は全てなくなる。本校は普通科専門コース制に鞍替えするが、ほとんど中身は普通科と同じものになる。

Q. 資料の目玉である「ハートフルほいく」以外の部分の字も大きく表示すべきではないか。理系・文系選択も非常に重要なカリキュラムである。文理もハートフルほいくと同じ大きさの字のほうが良いのではないか（委員）

A. 今後の資料にはその意見を反映させる予定。（金田校長）

Q. ハートフルほいくは入試の時に選抜するのか、それとも入学後か（委員）

A. 入学後に選抜をします。（金田校長）

Q. どのような意図で保育のコースに絞っているのか（委員）

A. 例年の生徒の希望状況を踏まえると保育が一番多いためである。就職のコースも考えたが、それ一本のコースを作るのは様々な理由でハードルが高い。（金田校長）

・平成 28 年度 学校計画及び学校評価について

Q 評価指標の中で『自分を表現する力 60%、プレゼンテーション能力 55%を身につけさせる』と過去の数値と比較して目標を立てている。しかし、この数値はどのようにして測ったものなのか、その経緯が分かりづらいので教えて欲しい。（委員）

A 大阪府の普通科総合選択制の学校がとっているアンケート結果の集計によるものである。（金田校長）

Q この数値は生徒の自己評価によるものなのか。（委員）

A そうです。どこの学校も同じアンケートに基づいて数字を出しています（金田校長）

・平成 27 年度授業アンケート結果について

Q. 『1回目と2回目で2回目のアンケートの数値が下がる』とお話があったが、微々たるもので全体的な数値が変わらないと思われる。そうであれば、数値にこだわるのではなく学校計画の3本柱に関連した生徒の生の声を反映させてあげたほうがいいのでは。（委員）

A. 教育委員会の管轄の問題もあり、大きくガラッと変えてしまうのは難しい。数値に関しては、ほかの学校よりは少し高い。そのこと踏まえて、満足度3.0を3.1に変えるために生徒の心を動かす授業の充実に向けて頑張っていきたい。（金田校長）

・進路に関して

Q. 進路の選び方がわからないという生徒に対して、普段どのような指導をしているか。（委員）

A. 総合の授業時に行っている2年生の選択授業のガイダンスの際、卒業後の進路をイメージし、そこから逆算して選択科目を選ぶように指導している。（ガイダンス長）

Q. 高卒就職者は全国的に見ても1年以内に3割、3年以内で5割辞めている。そのような中で、高校生のうちに地元で働いている魅力ある大人たちに学校に来てもらい話をさせていただく機会を、今まで以上に設けたほうがいいのでは。(委員)

A. 職業体験学習等で現場の人の生の話を聞く機会を設けている。本校独自の取り組みであり、実際の就職で失敗しないためというねらいで行っている。今後も続けていきたい。(金田校長)

・その他の提言

この地域の生徒の傾向として就職して、泉南から出て行かない。退職しても泉南のどこかの企業に就職し、留まっている。今後のため5期生と比べて、6期生、7期生、8期生の進路の調査・追跡を一人ひとりに行っていて欲しい。傾向の変化をつかんで欲しい。(委員)

・小中学校の義務教育と高校との連携を強化して欲しい。そして、「夢を叶えるためには何が必要で何をすべきか」をしっかり教えて行って欲しい(委員)

謝辞(校長)

こういった協議会でいただく外部からの意見は貴重である。中からは分からない意見をいただけるので、それをしっかり生かしていけるように尽力していきたい。今後も、普段の授業の様子など、見に来ていただけたらありがたいと思っている。

第2回

▼校長挨拶(金田校長)

○アクティブラーニング教室の説明。

○「学校再編の進捗状況・授業アンケートの結果」について。授業アンケートは平均3・11となり、例年より少し上の数値が出た。本校は前回の協議会でも話した様に、2回目のアンケート結果が下がる傾向にあるので、2回目に下がらないように注視したい。

■今年度の取り組みと現状報告

1) 授業アンケート集計結果、他(金田校長)

アンケートについては前述の挨拶で述べたとおり。

学校のその他の取り組みを紹介すると、6月上旬に地産地消のテーマで穴子バーガー、里芋タルトを生徒が開発し、J-COMの取材を受け、放送された。7月はアメリカのレスリング部と交流試合を本校で行った。8月はレスリングで本校の吉田君がインターハイに出場。9月にはレスリングのオリンピック等のメダリスト達に指導に来ていただいた。そして、この後にお話があると思いますが文化祭が行われました。10月はトイレの清掃活動をボランティアの方々で行いました。そして、国際理解教育の一環としてエジプト、中国、韓国の方に来ていただき、交流の機会を設けた。

2) 一斉配信事業(一斉配信担当)

教室に設置されたモニターを使用し、昼休みの12時50分から約15分間を使用し、様々なコンテンツを放送しています。例えば、1学期は新転任の教員紹介、修学旅行前には昨年の修学旅行の様子、2学期には就職面接対策と求人情報、今年度の文化祭の様子、昨年の学習発表会の様子など、その時々を生徒の関心事を取り扱っています。今後も生徒のためになり、興味をひくコンテンツを放映していきます。

3) 進路中間報告(近西教頭)

進路部長が欠席のため概略のみ。今年度センター試験受験予定は4名。

就職は一次応募52名、内定44名で内定率84・6%。昨年是一次応募46名に対し、内定30名と内定率は65・2%。内定率は上昇している。進学・就職ともに面接試験で違反質問は出ていない。

4) 生徒の状況(生徒指導部長より)

遅刻指導は例年通り、大きな変化はない。懲戒指導も例年とほぼ同じで若干減っている印象を受ける。その他、ここ最近の傾向としてSNSなどインターネットがらみの指導が増えている。

5) 保健室利用状況（保健部長より）

頭痛・腹痛で保健室を訪れ、その後で悩み相談となっていくケースが多い。すりきず、切り傷は登校中に、打撲は体育の際に発生したものである。保健室への来室は例年とほぼ同じ。長いスパンで見ると徐々に減少傾向にある。また、今年はおたふく風邪が出た。カウンセラーの利用は1年生が少し多い。中学時からカウンセラーを利用しており、カウンセラーに相談することに抵抗がない生徒が多いと思われる。

6) 翔南祭について（生徒会部長より）

文化祭としての質が向上している。例えば、3年生の出し物も以前はダンスばかりであったが、それがミュージカルになるなどしている。保護者の来場者数も増えている。

7) 教科書採択について（教務部長より）

教科書採択の採択理由を明らかにするために議事録をきちんととるようにしている。

8) 各学年の状況（各学年主任より）

▼1年生

慣れてきて、にぎやかになったり、だれてきたりということはあっても、目立ったトラブルはない。ただ、中学校時代から不登校だった生徒数名が、不登校になり始めた。特に原因はなく、まだ解決していない。今年のエリア選抜は進路を考えて話をしていきたい。

▼2年生

転入生が2名加入。修学旅行も成功といえる。現状、大きな問題はなし。

▼3年生

文化祭での舞台でクラス間の一騎打ちの様相で大変盛り上がった。劇の合間にCMをはさむなど、構成もこっている。クラスを越えて、学年全体でまとまっている印象を受ける。進路面では指定校推薦が、バッティングせずすんだ。就職率も昨年と比べて良い数字が出ている。ただ、2学期の遅刻が増えている。理由は主に祭り、進路が決定した際の気の緩みである。

9) 人権教育（委員長）

校長の話にもあったように国際交流教育を行った。難民についての教育を行いたく、中東の方を希望したが、最終的にエジプト、中国、韓国の方に来ていただいた。来月は少年犯罪被害者の話を行う予定である。

■協議

・ICT活用について

Q. 生徒だけでなく、教員がICTを使いこなせていないという現状があるように思えるが、今後どのように対応していくつもりか。（委員）

A. タブレットの導入や、AL（アクティブラーニング）教室開設に伴う電子黒板の設置などで、講習会などを行って行く予定である。ICT教育については検討する。（金田校長）

提言：教員全員でICTを活用していくという姿勢が大切なのではないか。（委員）

・コース制：ハートフルほいくコースについて

Q. 新年度よりハートフルほいくが実現されるが、ハートフルほいくコースの中の科目を教えるのは、普通の（いわゆる、保育や福祉専門ではない）教員なのか？（委員）

A. そうです。それぞれの先生の専門に沿って、それに「ほいく・福祉のマインド」を混ぜて指導を行っています。

（理想的な話だが、）既に教科の実力のある程度もっていて、ハートフルほいくでさまざまな引き出しを増やしながら、専門学校などに行くというのがいいですね。（金田校長）

・進学について

Q. 先ほど専門学校の話が上がったが、指定校推薦で行く場合と、一般で行く場合とでは、どのような差があるのか。（委員）

A. (今年)指定校の枠に対して生徒の希望が重ならなかったというのは良いことではあるが、現状としてはほとんどの生徒がAOと指定校といった具合である。(3年学年主任)

Q.モチベーション的にはどうなのか？(委員)

A.指定校を狙っているような子であっても、全皆勤で行くつもりであるという強い意志で来る子もいる。そのため、どちらの方が、モチベーションが高いかということは一概には言えない。(3年学年主任)

提言:先生が全員で、(生徒の希望を叶えるように、学力向上、進学指導に)対応していただけるという形でよろしく願いたい。(委員)

謝辞(金田校長)

本校が専門コース制に変わることをきっかけに大きく変わってほしい、と思っている。人に言われてするのではなく、自分から動けるようになる生徒が出てくるのが一番のねらいである。これからも、様々な形で本校を支えていただきたいと思っている。

第3回

▼校長挨拶(金田校長)

今回の生徒アンケート結果など、生徒状況を踏まえて、来年度の引継ぎや今後のことを本協議会で考えていきたい。

■今年度の取り組みと現状報告

1)授業アンケート集計結果他(金田校長)

授業アンケートの話に入る前に幾つか報告。

- ・事務室前に意見箱を設置している。保護者からの要望は特になし。
- ・本校は水曜を一斉退庁日として19時まで退庁することとした。また、クラブ活動の教員の負担減のため、週1日のクラブ活動休止日を設けるようにしている。何曜日を休みにするかは、それぞれのクラブが決めている。
- ・アクティブラーニング教室が完成。電子黒板とプロジェクター等の機能が使える。
- ・進路面では、大阪大谷大学、京都産業大学、追手門大学に公募推薦で3人が合格し、成果が出ている。
- ・授業アンケート結果について。前期・後期の結果が昨年度は前期3.02・後期2.96。今年度は前期3.11・後期3.10と数値は上がってきている。各項目で見ると、質問「私は授業内容について、必要な予習や復習ができています。」の数値がかなりのレベルで上がっているという結果となった。教員が出す宿題などの効果が表れていると思われる。「先生は、丁寧にわかりやすく教えてくれるか。」という問いについても、徐々に上昇傾向にある。一方で、「授業に関心はもてたか。」とか「知識がついたか」という質問に関しては、数値がなかなか上がっていない状況である。我々教員はこの結果をしっかりと受け止めて、これからの授業に生かしていく必要がある。ただ、「集中して授業に取り組んでいるか」の質問の数値が3.4と高値であり、まじめに授業に取り組んでいると思っている生徒が増えていると推察される。それらを踏まえて、今後いろいろと考えていきたい。

2)通科総合選択制アンケート集計結果他(金田校長)

本アンケートは、全国の普通科総合選択制の学校すべてについて同様に実施したものである。その結果が資料に記載されている。それによると、「普通課総合選択性の高校で学んでよかったか」、「エリアの学習は興味・関心を満足させた」、「自由選択科目について選択したい科目を選ぶことができた」という設問の項目において当てはまっている人数が、高い割合を占めている。

校長としては、d、eの能力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力)をととても重視しているが、この能力が年々上昇してきていることがわかる。これは、学習発表会など、本校独自の取り組みの成果が徐々に出てきているのではないかと考えている。b、c(考える力、表現)については、まだ目立った変化が見られない。現状の数字に満足せず、よりよいものに変えていこうとする姿勢が大切である。また、「本校を選んだ理由」の項目の部分では「自宅から近い」が多く、「説明会」や「部活動」を理由としたものが少なく、やや寂しい結果となっている。今後の課

題である。

3) 進路状況 (進路指導主事)

資料の通り、今年度の指定校推薦は、生徒間の競合なく調整の必要なしに全員が希望の大学に出願できることとなった。センター試験には3名出願し、2名が受験した。今後、私立大学も一般試験で受験する予定である。就職については、企業の採用意欲の向上と相まって、84.6%と、例年より大幅に高い内定率となった。また、看護系の専門学校についても15名が合格している。

4) 生徒の状況 (生徒指導主事)

12月31日現在(実質1月26日現在)の遅刻指導人数は、昨年度と比べて、1年生(8期生)が特に増加している。昨年は18名で今年は33名となっている。3年生は、「延べ人数」が大幅に増えている。懲戒件数は、今年度は1月26日現在で19名(件)となった。6期生の懲戒件数が、今年度は未だ「0」ということは、特筆すべき点であるといえる。懲戒の全体件数は今年度(1月現在)で19件、昨年度(3月末)で24件、この調子で増えなければ最終的な結果は昨年度より懲戒件数が少なくなると予想される。1月段階の数字だけで見ると、今年度と昨年度はほぼ同じ。

5) エリア人数の推移について (教務部長)

例年、こども福祉エリアの人气が高く、選抜を行っていた。しかし、選抜する旨を事前に伝えたことが影響したのか、1回目の希望調査で希望者が減り、大多数が人文考究に流れた。福祉エリアの人数は最終的に25名となった。また、例年人数が多いスポーツエリアも男子のみ12名となり、女子は他のエリアに流れた。芸術表現と情報科学エリアは、例年より増加している。情報科学が例年より多いのは、担任の一人が情報の教員であることも影響しているかも知れない。理数・医療も希望者が多く、これは経年比較しても、あまり数の増減はなかった。

6) 各学年の状況 (各学年主任より)

▼1年生

資料を見ていただくと分かるが、4月、5月は遅刻指導の人数が0人であるのに、6月、7月と月を追うごとに人数が増えている。遅刻指導にかかる人数が一番多い学年であるため、しっかりと指導を行う必要がある。今の一年生の一番の課題であり、なかなかうまく改善していない。教員と生徒間の関係は、今のところ良好な状態を保っていると思われ、こちらの指導に反発するような者はいない。また、先日、外部の方を招いて進路の話をして頂き、話は静かに聞いていたが、しっかり頭に入っているかは未知数である。この辺りにも今後の改善点や課題があると思われる。

▼2年生

非常に欠点保有者が多い学年である。そうした中で、年度末に向けてネジを巻いていくべき時となっている。

▼3年生

1月27日で授業が終わり、2月28日が卒業式となる。先週に行ったクラスマッチは大変盛り上がった。終了後、クラスマッチ開催を感謝してきた生徒もいた。ただ、初戦で同点となりじゃんけんで勝敗を決めたため、負けたクラスが不満を持ってしまったのが、少し残念である。学年の懲戒指導該当者は0人でこちらもうまくいっている。

7) 学校内部評価と学校教育自己診断アンケート結果 (近西教頭)

自己評価シートは、「確かな学力の育成」「思いやりの心を育てる」「心安らげる学校づくり」の3本の柱をもとに、学校目標を達成すべく評価している内容である。シートの下部に5段階の評価基準が掲載されている。

自己診断アンケートについて、保護者、生徒、教員対象のアンケートも載せている。◎となっているところは特に当てはまる割合が高いものとなっている。×がついている部分については、その結果を真摯に受け止め、組織的な対応を心がけていく。

◎がついているのは、「自分のクラスは楽しい」、「服装・頭髪の指導がきちりしている」、「生徒指導に組織的に対応できる体制が整っている」、「問題行動防止のために、早期指導に学校全体で取り組んでいる」、「教育活動について、教員間で話し合っている」、「常に自己研鑽し、授業力向上に努めている。」の項目である。

反対に×がついているのは「生徒会活動が活発である」、「部活動は活発である」、「授業や部活動

で地域や近隣の学校と関わる機会が多い」、「本校の生徒はアクティブラーニングに取り組みやすい」の項目である。

学校教育自己診断アンケートの集計結果とその考察と、今後の課題と対応策を載せている。そちらに詳細は記しているのので、説明の詳細は割愛する。

アクティブラーニングの実施状況アンケート結果を載せている。

授業の展開や工夫の点で色々と取り組んでいる。しかし、協力して問題解決を行うグループワークや生徒の自己評価活動などについては、不足していると思っている教員が多い。アンケートの全体での評価では生徒の自己評価活動を実施させている割合は低いが、かなり、熱心に行わせている教員も少なからずいる。これらのことも踏まえ、わが校に適したアクティブラーニングを今後も考えていきたい。

以上で前半終了。

首席「ここまでの話で、何か質問がある方はおられますか」

金田校長「質問ではないが、アンケート等、各項目の数値については各学年の人数、つまり分母が異なるので、数値を見る際はそこを念頭において見て下さい。」

15:25～15:35 <休憩>

■協議

①「学校教育自己診断アンケート集計結果」を受けて

②「りんくう翔南高校の将来」に向けて

座長：田中委員

▼協議に入る前に、本校の補足説明。

・近西教頭：アクティブラーニング教室の電子黒板を紹介。事前に情報の先生が設定してくれたが、それがあれば機械に詳しくない私でも、簡単に電子黒板の機能を使用できる。今後、この教室を有効活用していきたい。

・佃事務長：事務の視点から見た本校の状況を報告。

本校の武器はマンパワーと生徒一人当たりの敷地面積といったところである。しかし、マンパワーについては、採用試験の競争率が下がる傾向にあるため、楽観はできない。

全体の明るい話題としては、来年度は、トイレの改修工事が大阪府の公立高校で始まる。1校で約5000万円かかる大掛かりなものである。本校は既に実施しているから、これは行われぬ。

また、アクティブラーニング教室を作るための、部屋の改装に伴う不用品の廃棄処分は通常工事業者にさせることが多いが、本校は職員が行った。職員で行った結果、教室の後ろにホワイトボードを設置する経済的余裕ができた。

府内の学校運営はメンテナンス重視の方針で運営されている。府の方針の「50年で建て替え」が70～80年に延長になったためである。今年から3年間で古い学校の劣化調査が始まり、本校も明日（2017年1月27日）に劣化調査が入る。十分に担当者に説明し、施設整備につなげていきたい。

○本校で1期生～8期生まで、8年間生徒を見てきているが、3期生の頃くらいから、りんくう翔南高校のカラーが出てきたという印象を受ける。学力や進学者数も上昇しているのではないかと。生徒たちも、楽しそうに学校に来ている様子が伺える。今後も、学校再編など、様々なことがあると思うがりんくう翔南の特色を生かし続けてほしい。私としても、この学校は評価できると感じている。今後も組織的に取り組んでいただきたい。そして、しっかりとした社会人になれるように先生方には育てて欲しい。1年生時にしっかり指導をすることで、生徒も落ち着き、それが可能になるように思える。（委員）

Q. 今年の3年生は「落ち着いている」と各方面から聞くが、最初から落ち着いているのか？他の学年はどうか。懲戒無しという話も出ていたが、単に生徒の質が良いからというだけなのか、そのあたり、来年も試されるのではないだろうか。（委員）

A. 6期生は、学力的には他の学年と比べると低い。入試の際に6人しか不合格が出ておらず、ほぼ全入に近い。生徒指導に関しては、学年が一丸となって行ってきた。（3年学年主任）

A. 学年によって、大人しいとかやんちゃだとかいう話は、外部からもちよくちよく聞こえてくる。

先生たちの生徒への指導に関しては、同じようにやっている。そして、本校は、今が転機なのではないかと常々思う。いやいや学校に来るのではなく、まず学校を楽しいものにしようというつもりでやってきた。そこで、来年度からは、次の高い目標、具体的には「あまり指定校やAOなどに頼らず、自分で力を付けていくこと」「進学の実績を残していくこと」、「健康面と体力の向上」の文武両道の充実に変えていくべきときなのではないか、と考えている。そのためのヒントを、本日はいただければと思う。(金田校長)

Q. 男女比は？(委員)

A. 2 : 1 で女子が多い。(金田校長)

Q. 今年の3年生は、留年生・転退学者など、どのような感じか？(委員)

A. 今年の卒業生は220名。募集が240名だったということを見ると、とても落ち着いているように思える。(金田校長)

Q. 進路について詳しくお聞きしたい。たとえば、JSS(関西空港)の会社などは、泉南高校時代からの子も在籍している。長年の交流があるからこそ、会社からも信頼されるのではないだろうか。そういう風に、会社ともいい関係を築き上げていくことが大切だと考える。今、生徒と会社の関係はどのような感じなのか。(委員)

A. 関空や運輸関係はより採用熱の高まりから、採用率が高くなっているというイメージだ。ただ、大学、専門学校、就職と全体の数字に関して、そこまで大きな変化は無いと感じられる。(進路指導主事)

Q. 進学に関しては、貧困のため諦めざるを得ないという状況が多いようだが、奨学金のシステムは、どう変動してきているのか。(委員)

A. 同じです。進学希望の8~9割が奨学金を申し込んでいる。利子がついて返すタイプ、いわゆるローンと同じもので、奨学金の形自体は変わっていない。申込者数は去年よりも多い。本校のパソコン教室から奨学金希望者は申し込みを行わせたが、希望者が多く、パソコンが足りなかった。そのため、大変時間がかかった。進学に関する費用の資金繰りについては、AO入試で受かっても資金繰りが出来ず、進学不能になることもある。奨学金も、支給されるのは入学後で、その前に入学金や諸費用や支払わなければならないが、その奨学金が来るまでの期間が経済的にもたない家庭もある。この問題については、今後とも考えていかなければならない。(進路指導主事)

Q. そんなに増えているとは思わなかった。やはり厳しい家庭が多いという状況なのか。(委員)

A. 本校の目標として進学実績は上げたい。実際に経済的に苦しい家庭も多く、学校側がどこまで進学に対してプッシュしていけばいいものなのか、正直ずっと迷っている。(金田校長)

○このような厳しい状況の中で、生徒たちはしっかりと地に足をつけた判断をしているようには思う。(委員)

5. 校長謝辞(金田校長)

本日は、りんくう翔南高校の将来について、さまざまな角度から貴重な提言を頂き感謝する。今後とも、本校教育活動にご尽力願いたい。

6. 閉会の辞・諸連絡(教頭)

学校協議会の委員の方々には、所定の用紙に総合評価とコメントをお願いしたい。

生徒の状況、貧困と指摘されるような家庭の経済状況の厳しさを念頭に置き、次年度も頂いた提言を十分生かした教育活動に専念したい。引き続きご協力を賜りたい。

学校教育自己診断結果まとめと学校協議会委員からの提言

1. 平成28年度学校教育自己診断アンケート集計結果と対策

アンケートは、昨年度とほぼ同じ内容で、12月に実施した。1月初旬に整理できたアンケート集計結果をもとに、2017/1/6 職員会議で結果をシェア(共有)し、教員にも意見をもらうなどして、より細かく分析し、次年度への対策等をまとめ、実施可能なものは実行に移している。

細かな分析結果の記述は、後に譲るとしても、大まかな傾向について整理し、今年度のまとめと次年度への取り組みのチャートとする。

■生徒アンケートの結果

1. プラス評価が高かった項目

『よくあてはまる、及び、ほぼあてはまる』というプラスの評価が7割以上を占める項目は、**自分のクラスは楽しい(80.9%)、自分は授業に集中して取り組んでいる(74.2%)、服装や頭髪の指導がきちんとされている(75.5%)、自分は、校則やマナーを守っている(90.5%)、自分は教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(72.2%)**であった。

クラスの8割の生徒が、学校やクラスが楽しいと感じてくれているのは大変好ましいことである。しかし、2割弱が逆の意識をもっており、4.4%が全く当てはまらないと答えているので、クラスに1~2名はまったく楽しくないと思っている生徒がいることになる。このように、良い値だけに目を奪われることなく、少数生徒の「困り感」にも寄り添って見守っていききたい。このような数値を「0」に限りなく近づけていく努力が必要である。

2. マイナス結果が出てしまった項目

『あまりあてはまらない 及び、全くあてはまらない』つまり、マイナスの傾向のある課題を抱えた項目を拾い出してみると**生徒会活動、部活動、地域連携**となった。

生徒会活動については、記述部分でも、文化祭や体育祭などのイベントの改善、球技大会の新設などを具体的な内容をあげる訴えが目立ったので、行事後の反省やアンケートを活用し、より具体的な要望などの内容を明らかにし、次年度に生かすように対処した。

また、球技大会については、今年度3学期に各学年でLHRなどを活用して、すでに実施した。次年度はなるべく行事予定の段階で入れていく予定である。

わかる授業や生徒指導への意見や要望については、アクティブラーニングに関するアンケート、授業力向上自己診断アンケートなどを実施し、教頭で集約し、課題の洗い出しと具体的な改善点を明確にできるよう努めた。その結果についても教員間で共有した。

すでに取り組んでいる教員もいるが、次年度の自己申告の中に明示してもらえらると思う。

地域連携については、通学路清掃(年間2回実施、参加ボランティア生徒、のべ260名参加)、地域老人会との交流(30名参加)、その他、保育園等との交流など実際の活動はあるが、広報不足は否めない。さらに活動を充実させることはもとより、地域に発信し、校内の理解も高めていきたい。

3. その他 (気になるところ)

高校生は、教員とは距離を置き始める年代ではあるが、「悩みや相談に親身になってくれるか」と「診断テストが進路に役立っているか」という項目のポイントがあまり高くないのが気にかかる。

■保護者アンケートの結果

1. プラス評価が高かった項目

子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(81.0)、服装や頭髪の指導がきちんとされている(75.6)、子どもは校則やマナーを守っている(86.1)、先生は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる(72.1)、子どもは文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に楽しんで参加している(74.4)、子どもは教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしているようだ(75.6)、りんくう翔南高校のPTA活動は活発であると思う(87.9)などの項目のポイントが高くなっている。特に、「子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(81)」と「校則やマナーを守っている(86.1)」の項目は生徒と一致している。ただし、記述部分等でも、生徒会活動・部活動、行事の改善の他に、生徒指導や地域連携など多様な指摘もあり、真摯に受け止めて積極的に改善していききたいところである。担任や教科担当を中心に、アンケートだけでは十分拾い切れない声を聞き取っていただければと思う。

■教員アンケートの結果

「子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(94.1)」と生徒や保護者の見解と一致する項目があると同時に、生徒指導はきちんとしている(86.5)が生徒は校則やマナーを十分守っていないのではないかという結果になっている。進路指導や人権啓発活動、災害避難訓練などの項目では、教員の努力感と生徒や保護者の受け止め方の感覚にギャップがあるような結果が出ている。生徒や保護者

と一体になっていく学校教育活動や指導の工夫が求められる。また、部活動の活性化や組織力、教員の熱意を高めるべきだという指摘もあった。

本年度は、生徒の主体性と協働性を大切にしたアクティブラーニング(または、アクティブラーニング的な授業)への取り組みを重点目標に掲げてきたが、その意義は感じつつも、教科の特性や本校生徒の現状において、今年度については取り組みに苦勞している状況が浮き彫りになった。本校生徒にあった効果的な授業として教科や校内全体で研修を実施し、情報を共有し工夫を加え、より一層組織的な取り組みとして強化し定着させていきたい。(分析・まとめ/教頭 近西)

◇授業アンケート・自己診断アンケート結果を受けて ／課題の確認と取り組み

1. 授業力向上
2. 行事やイベントの工夫
3. 部活動の活性化
4. 教育活動の充実と地域連携・発信
5. 校内組織力、熱意や教師力の充実(学校力の向上)
などがアンケートの中で指摘されている。

1. 授業力向上について

本校では、校長の発案で、授業力向上週間(研究授業;2学期に実施)、相互の授業観察、フレッシュな若手教員と再任用の経験豊かなチューターをペアリングして指導力を高めていこうとする制度等、授業力の向上に取り組んできた。

授業力向上週間を1学期にも設けるなど、期間を広げて柔軟に対応していくことも必要である。教科による研究授業を1学期と2学期のどちらでも選べるようにし、授業観察も1学期から少しずつ進めていくなど、年間を通じて余裕をもった取り組みとすべきである。アクティブラーニングのアンケートを定着させるなどエビデンスを活用した改革に取り組んでいく必要があるだろう。

2. 行事やイベントの工夫について

要望はあがっているが具体的な内容が今回のアンケートだけでは、わかりにくいところもある。特に、生徒会の担当となる文化祭や体育祭においては生徒会担当にアンケート調査などの意見を集約してもらい、次年度は必ず具体的な改善に取り組んでいく。球技大会については、次年度の行事予定に、組み込むなど迅速に対応し結果につなげていく予定である。

3. 部活動の活性化について

2月中旬から3月ごろに、今後に向け教員の意見を集約する予定なので、これをもとに、適当な組織で検討を加え、アイデアを出していくなど、トータルコーディネートできる部署や組織を活用し、なるべく早期に具体的な対応をしていく。

4. 教育活動の充実と連携・発信について

様々な活動にすでに取り組んでいるが、まず、発信の形、方法を高めていく必要があると考える。具体的には、一部の取り組みであるものについては、学校全体に広げていき、その内容についてホームページでどんどん発信していく。部活や行事は恰好の材料であろう。地域の老人会との交流、地域清掃、ダンス・合唱、絵馬の奉納など具体的にいろいろ取り組んでいるので、内容をさらに充実させることはもとより、発信していく機会を意識的に高めていく。

また、アンケートの中にも指摘があったが、進学希望者や資格取得希望者があるなら、早期にクラスや学年で積極的に後押しをするなど、1年次より、生徒の意識や行動力を高める指導をしていく。指定校推薦なども1年次より頑張るとよいこと等、指導を早めに丁寧かつ効果的に行い生徒に先に見える努力をさせる。

また、奨学金を受けずに進学しようとした場合は、長期の準備が必要なので、進路に対する生徒の意識を一層高めていくためにも低学年からの確実な指導が必要である。奨学金は将来、借金にもなりかねない。これらのことを常に生徒に発信し続けることも必要であろう。その点を、ホームページなどにも分かりやすく公開していくなど、広報活動の工夫やさらなる取り組みが必要である。

また、積極的に広報したいと思える教育活動の中身の充実も大切なことである。

5. 校内組織力のさらなる充実について

授業力の向上や学習発表会など、核となる活動を充実させ組織力を持たせていくこと、内規の改正により校内委員会の再編や整理などを実行し、必要で効率的な活動ができる組織の整備をしていく

必要がある。すでに各部署で必要なところは着手している。今年度中にある程度、形を整えたい。若手教員(フレッシュマン)と再任用等経験の豊かなチューターの精製の協力制度や将来構想を担う組織のあり方、部活動への取り組み、コース制への改編で指摘されている国際理解教育や進学実績向上などの校内組織整備が求められる。課題解決に向け教員組織のさらなる活性化が求められる。(2017/2/10 まとめ/文責;教頭 近西)

2.平成28年度 学校協議会委員からの提言〔まとめ〕

○印：各委員からの提言の内容

1. 確かな学力の育成

- 「進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック」および「28 自己診断結果まとめ+コメント」内の実力診断テストの活用について。テストを実施するだけでなく、教科へのフィードバック、クラス担任教員への進路指導での活用についての研修会を平成 29 年度には実施をすることで、より生徒、教員ともに活用が進み、進路指導の充実をはかれるのではないかと思います。（研修会等を実施したらどうか?。）
- 普通科総合選択制アンケートから、アクティブラーニングの基礎となる、考える力・表現する力・コミュニケーションをはかる力の育成が必要と思われる。今後の取り組みを通して、社会で適用する人材の育成を図ってほしい。
- 全体的に各学年において学習意欲が高いように伺える。さらに向上することを念頭に教員と生徒の意識改革をテーマにすることも必要。1～3 年生の 3 年間における生徒指導を見ると一部の生徒を除き一定、安定してきていると評価できる。今後は、1 年生における徹底した指導を行うことが 3 年間の学校生活が楽しめることになると考える。
今年は、進学率 7 割、就職率 3 割、と若干就職者が増えてきたと思う、その中でも進学者にあっては頑張って上をめざす生徒が増えている。教員の取り組みを評価する。今後も努力を!!
- 全体として、生徒は落ち着いて大切な 3 年間で過ごせていると思う。より充実した自己実現ができるよう、めざしてほしい。
- 地域の行事などの参加の際、生徒が思うより周り(地域)の人たちは見ている。その評価は年々高くなっているようなので、引き続き頑張してほしい。
- 教員の ICT 活用能力を高めて、効率的効果的な授業が展開できるように努めてほしい。

2. 思いやりの心を育てる

- 全体的に楽しく学校生活が送れているとうかがえる。生徒間の連携やなかま意識が高いと聞く。高校生らしく社会人に向けた心の準備が必要だと思うので、そのあたりも頑張してほしい。
- SNS など、目に見えにくいところでの問題など指導が難しいことも多いと思う。
SNS との付き合い方を指導するなどの教育を推進すべきだろう。

3. 心安らげる学校づくり

- 自己診断結果から校則やマナーを守ろうとする意識の定着が見られ、懲戒件数からも学校の取り組みの成果が見られる。今後、地域との連携を図り、生徒を理解してもらい取り組みを通して、地域にとっても安心できる学校づくりをお願いしたい。
- 学校全体においては、8 期生を迎えて、りんくう翔南としての生徒のカラーができたと思う。
学校編成が今後、行われる中、更なる学校の特色を根付かせていくことが必要。卒業生を迎えて講和等に取り組むことも検討するとよい。
- 落ち着いた学校になってきている。良くも悪くも生徒たちは、本当に素直に楽しく 3 年間過ごすことができている。より一層、積極的に自分の人生の方向について考え、実践していくことができる生徒を育てていただける学校であってほしい。

2017/2/16